

「私をもっと見て」 認知症と向き合う

～職員が鏡であることに気づき学んだ～

特別養護老人ホームおおすか苑 介護職員 鈴木裕記奈
介護職員 水野裕考

社会福祉法人 大須賀苑

〈法人理念〉

「利用者一人一人がその人らしく自立した生活を営むことができるよう支えることを目指す」

特別養護老人ホーム：従来型 50床

ショートステイ：20床が併設

通所介護：ほほえみ・山崎デイサービスセンター

居宅介護支援事業所

ユニット型施設 30床

H29年1月～

小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護を開設

日の出の郷ユニットについて

◦入居者：男性4名 女性6名 計10名

◦職員：5名

◦ユニット名の由来

「日の光を浴びて1日穏やかに
過ごしていただきたい」



取り組んだ課題

・AさんBさんの事例をもとに、混乱なく当たり前の生活を送れるようなケアの見直しをした。

・ユニット入居者一人一人が落ち着いた暮らしの継続していくには、職員がどう対応していけば良いかを考えた。

Aさんについて

・男性（76）

・車椅子に乗って苑内を散歩し入居者や職員と話をしたり、自室にて相撲や水戸黄門、スポーツ番組を見るのが日課であった。



Bさんについて

・女性（95）

・ウォーカーを使い自分でトイレにも行き、苑内の知人、ショートステイまで散歩しおしゃべりをするのが日課。

・魚屋を経営をしていたため顔が広く知人が多い。自身も話をするのが大好きである。



Aさんの変化

- ・ H27年 12月～
親しい方が亡くなられてから「わからんな」という言葉が増え食事も「食べ方がわからん」「味がわからん」と食べられなくなる。
- ・ H27年 12月
「ここから出なきゃいかんな」と居室から自分の荷物を出すようになる。
- ・ H28年 9月～
「足が腐ってきた」「血が出る」など

Bさんの変化

- ・ H28年 8月～
夜眠れない日が続きコールボタンを押し続ける。
「なんでもない」「ねむれんだよ」と言われるが表情は穏やかであった。
- ・ H28年 9月～
Aさんの行動を監視し注意をするようになる。
- ・ H28年 10月～
眠れなかったりAさんの行動を監視し注意することが増えてきたため初めて専門医を受診し抗不安剤が処方される。
新しく入所された方の姿・声を聞くと表情が陰しくなる

少しずつ募っていく苛立ち・喪失感に
気づいてあげられなかった



Aさんは落ち着きがなくなる...

Bさんから笑顔が消える...

2人の言動

Aさん

- 「何がわからんのかわからん」
- 「俺の部屋じゃない
(物じゃない)」
- タンスから荷物をすべて出す
- 落ち着きなく施設内を動き回る
- Bさんに叱られ謝る

Bさん

- 「ばかやろう!」「人殺し!」
- Aさんの行動を監視する
- 過度な被害妄想「警察を呼べ!」
「子供が誘拐された」等
- 他の利用者を怒鳴る・叩く



自分以外をかばう職員は全て「敵」

ユニット内の雰囲気は最悪

Bさんをどうにかして
くりよ!
どっかつれてけや!

どうすればいいのかわからない...

AさんBさんばかり構ってる
じゃないよ!

勝手に部屋を開けられて嫌だけど、
文句も言えない

仕事が辛くて行きたくない...
顔も見たくない...
イライラする...

新しく入所したC
さんを
部屋から出しちゃ
ダメだ!

大声を出したり
壁を蹴る

専門医の言葉 「介護は鏡だ」

相手の態度・言葉を否定せず、全て受け止める、
共感し相手に寄り添う



わかってはいたが職員の気持ちには
余裕がなかった

AさんBさんに関わってばかりだと
他の人の介助に手が回らない!

がんばって乗り切ってと言われても...

多職種との協力

- 専門医への受診の回数を増やした。
- 家族に現状を伝え、面会回数を増やして頂いた。
- 会話内容を時系列で細かく記録し分析した。
- 職員同士、良いケア、悪いケアの対応の仕方を注意し合い見直した。
- 食事の席を変更しBさんと新しく入所されたCさんと顔を合わせないように時間差で食事提供。
- 入居者の話を1対1でじっくり聴く。

<評価>

- AさんBさんの喪失感にもっと早く気づき共感できていればよかった。
- 1対1で時間をかけてじっくりと話を傾聴し寄り添うという事がいかに大事な事を学んだ。
- 利用者一人一人誰しも、「私をもっと見て！」
「もっと関わってほしい！」と思っていることに気づくことができた。

<成果>

- ユニットの雰囲気が穏やかになった。
- 職員の気持ちも落ち着いてきた。

今後の課題

普段の入居者の嬉しい・たのしい・さみしい・辛い・哀しい思いに気づくこと

入居者の環境の変化に気を配る

今までの生活習慣をどうやって継続させていくのか

入居者と関わる時間を作り情報を共有していく

ご清聴ありがとうございます
ございました